

株式会社日本農業サポート研究所 平成25年度事業実績

年	月	事業内容
2013年	5月上旬	弊社が中心になり、カンキツのマルドリ方式(独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター開発)の設備をタイ・チェンマイに設置した。独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託を受けた、ITを活用したカンキツ・マルドリ方式の実証試験がスタートした。
	7月	タイでの実証試験において、NECシステムテクノロジー社が開発したシステムを使って、実証試験で収集した気温・湿度・カンキツの横径・土壌水分などのデータを登録したり、折れ線グラフなどで過去のデータの推移を見たりすることができるようになった。IT活用の実証が実質始まった。
	7月～9月	JICA研修コース「普及企画管理者コース」(実施機関:全国農業改良普及支援協会)のインセプションレポートの発表、Facts & Lessons(気づきと生かせる点)の実習、業務改善計画案(JIP Job Improvement Plan)作成などが、JICA筑波国際センターで行われ、弊社代表福田浩一が助言者として参加した。
	9月～3月末	A県から、地域興しのコンサルの依頼を受け、弊社代表の人脈を生かし、専門家とチームを組んで対応した。具体的には新たな特産物開発や里山の活用手順など、26年度のアクションプラン作成に向けた提案を行った。
	12月上旬	東京農業大学国際食料情報学部国際バイオビジネス学科3年生の学生を対象に、稲泉博己先生担当『バイオビジネス普及論』の特別講義で、弊社代表福田浩一が「タイでのITを活用したカンキツマルドリ方式の普及活動」と題して講義を行った。
2014年	3月上旬	3月7日、日本農業普及学会平成25年度春季大会の個別研究発表会が行われ、全国の普及関係者など約100名が出席。この発表会で、弊社代表福田浩一が、「ITを活用したカンキツ・マルドリ栽培の遠隔指導の可能性と課題」と題して発表した。
	3月末	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から委託を受けて、2012年度～2013年度実施されてきたタイでの実証試験が終了した。ITを活用し、マルドリ区のカンキツが慣行区のものより、高品質になり、当初の目標を達成した。